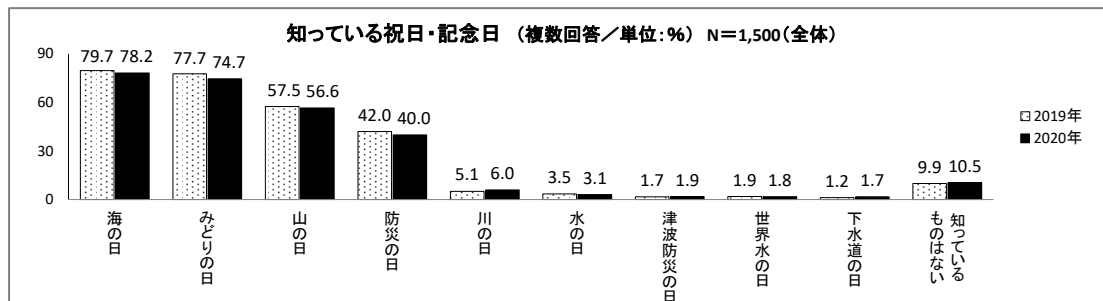


## Q.知っている祝日・記念日は？（9択+知っているものはない）

◇「水の日」の認知率が上がる。

ここ数年毎年調査している水や自然にかかわる祝日・記念日の認知。今年の結果は、「みどりの日（5月4日）」（74.7%）、「海の日（7月第3月曜日）」（78.2%）の両祝日の数値が例年同様に高く、施行5年目の「山の日（8月11日）」（56.6%）がそれに続き、祝日以外では「防災の日（9月1日）」が4割（40.0%）と、他の記念日を圧倒。以下はいずれも認知率一桁で変わらず、「水の日（8月1日）」（3.1%）も3%台のままでした。



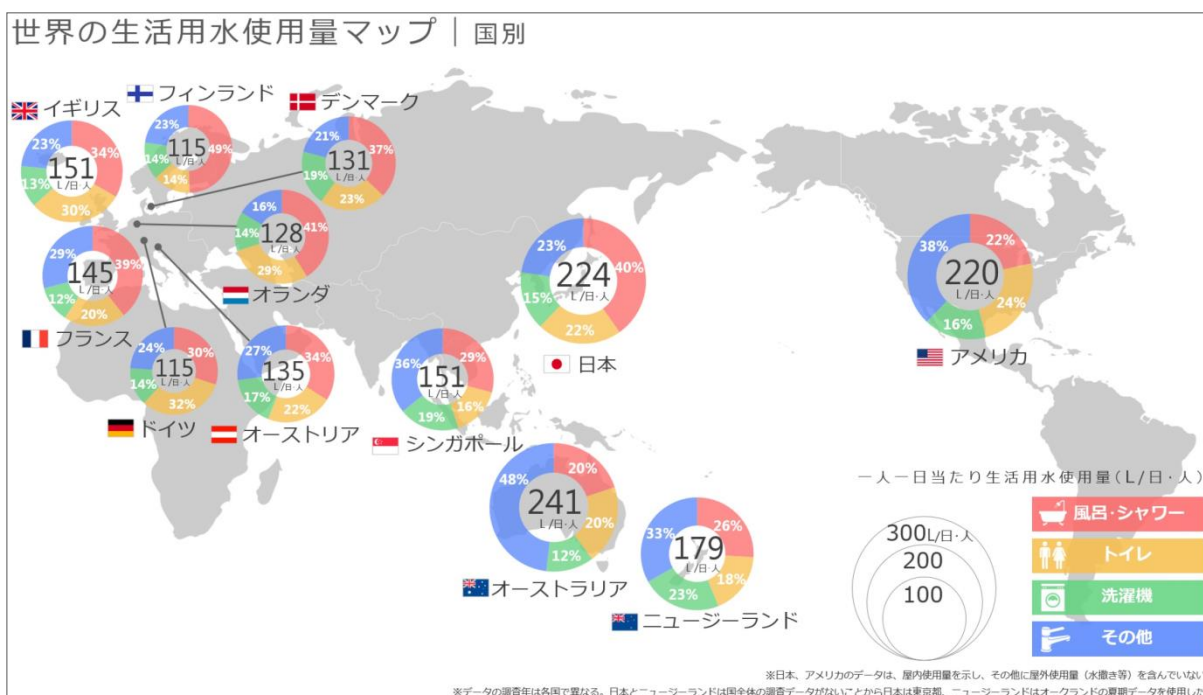
## ◎コラム「世界の水事情」 <1> 日本と海外における水の使用量

本調査では、例年「家庭で1日に使っていると思う水の量」について調査していますが、今回新たに、日本の1日に使っている水の量は外国と比較してどう思うかを、「外国より多いと思う」「外国と同じくらいだと思う」「外国より少ないと思う」の3択で尋ねたところ、69.5%と多数の人が外国より多いと答えていることが明らかになりました。

これは、蛇口をひねればそのまま飲むことができる水を、豊富に使うことができる日本で暮らしているからこそその意識なのでしょう。2018年の調査で実施した世界の水問題の認知に関する設問では、「世界では水道水をそのまま飲める国はごくわずか」に約7割の回答があったことから、日本の整備された水道インフラが世界の当たり前ではない（＝日本は水に恵まれた国）という共通認識はありそうですが、実際に日本の水の使用量は、外国と比較してどうなのでしょう。

公益財団法人水道技術研究センターの「世界の生活用水使用量マップ」によると、日本の1人1日あたりの使用量は224リットルで、オーストラリアの241リットルに次ぐ2番目。220リットルのアメリカまでが200リットルを超えています。ヨーロッパに目を向けると、一番多いイギリスで151リットル、ドイツは日本の約半分の115リットル。同じアジアのシンガポールは151リットルと、日本よりは欧州諸国に近いようです。なお、使用の内訳では、日本は「風呂・シャワー」の比率が高く、割合ではフィンランド、オランダを下回るものの、使用量としては最も多くなっています。

今回の本調査で節水の意識や行動をしていると回答した人が多かったことから、無駄遣いをしているという意識はなさそうですが、世界的に見ると日本の使用量は多いようです。



出典：水道技術研究センター(2017)「水道の国際比較に関する研究」

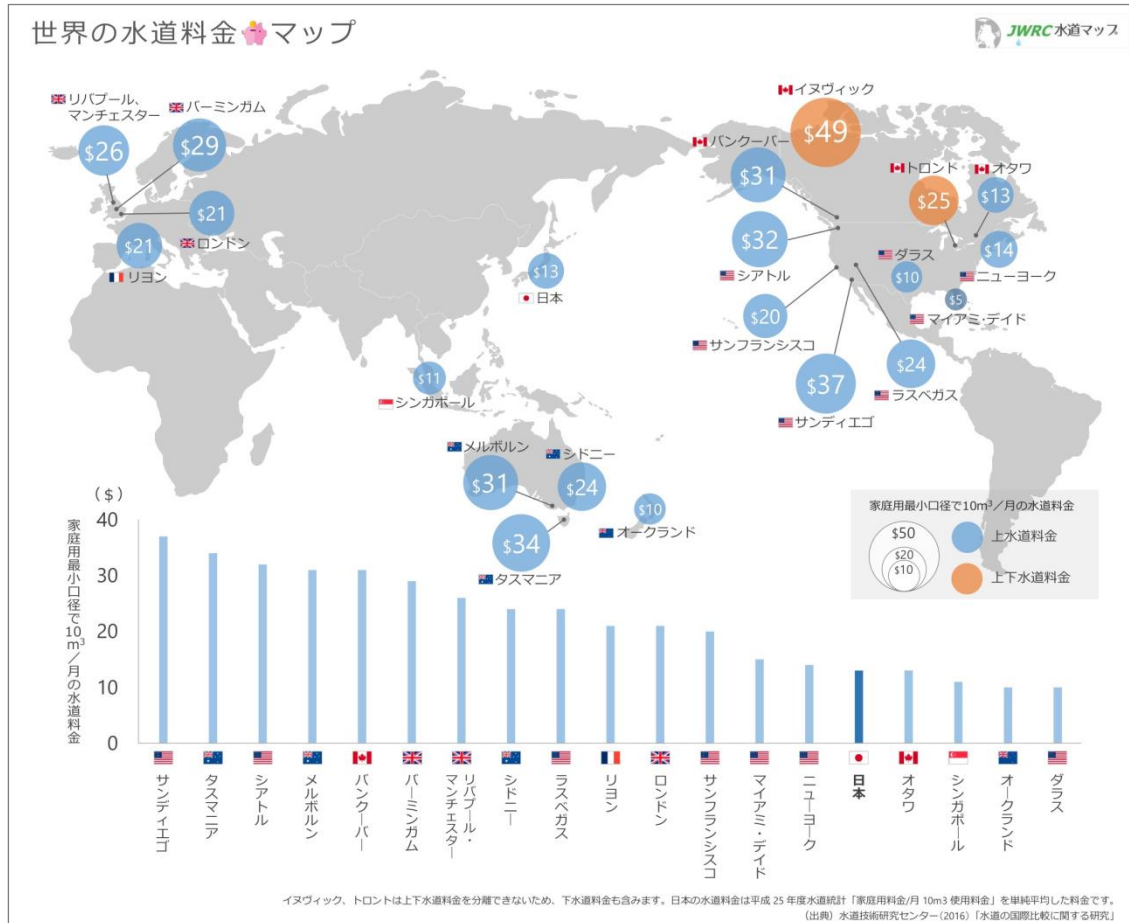
## ◎コラム「世界の水事情」 <2> 日本と海外の水道料金比較

本調査における「水道水への不満」は、「水道料金が高い」が常に上位となっており、今年も3人に1人以上が不満としてあげています。そして今回、「日本の水道料金は外国と比較してどう思うか」の設問（「高い」「同じくらい」「安い」の3択）では、「外国より高いと思う」に約4割（37.2%）の回答がありました。日本の水道料金は、本当に高いのでしょうか。

公益財団法人水道技術研究センターの「世界の水道料金マップ」を見ると、日本は13ドル（USドル換算）で、加・オタワ（13ドル）と同等、米・ニューヨーク（14ドル）やシンガポール（11ドル）とも大きくは変わりませんが、英・リバプール、マンチェスター（26ドル）の半分、米・シアトル（32ドル）、加・バンクーバー（31ドル）、豪・メルボルン（31ドル）などと比べて4割程度でした。

日本の水道料金は、平均では13ドル（約1,500円）ですが、例えば札幌市1,452円、夕張市3,000円、東京都1,067円、大阪市1,045円、名古屋市797円、北九州市858円など地域格差があり、日本の水道が抱える課題の1つとなっています。

※料金は、家庭用最小口径あたり10m<sup>3</sup>/月使用の場合で試算。



沖 大幹（おき たいかん）  
 東京大学 大学院工学系研究科 教授  
 「ミツカン水の文化センター」アドバイザー

1964年東京生まれ。1993年博士（工学、東京大学）、1994年気象予報士。1989年東京大学助手、1995年同講師等を経て2006年より同教授。2016年より国連大学上級副学長、国際連合事務次長補を兼務。専門は水文学（すいもんがく）で、地球規模の水循環と世界の水資源に関する研究。書籍に『水の未来』（岩波新書、2016年）、『水危機 ほんとうの話』（新潮選書、2012年）など。生態学琵琶湖賞、日経地球環境技術賞、日本学士院学術奨励賞など表彰多数。水文学部門で日本人初のアメリカ地球物理学連合（AGU）フェロー（2014年）。



### 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年（文化元年）の創業以来、食酢の醸造を社業の中心としてきました。食酢の醸造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものがありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立しました。センターでは研究活動、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、市民参加型イベント「発見！水の文化」の実施など、様々な活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として、センター設立前から実施しているもので、研究事業や、一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用頂くことを目的としています。